

苗木生産者の素材生産業への業務拡大

1. 林業事業体等名 ゆうげんがいしゃ 有限会社 いたのうえん 伊東農園 (秋田県北秋田市)

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 1,650m³ (うち間伐の占める割合 75%)
- ②生産する主な樹種 スギ
- ③素材生産に関わる作業員数 4名 (1セット4名×1セット)

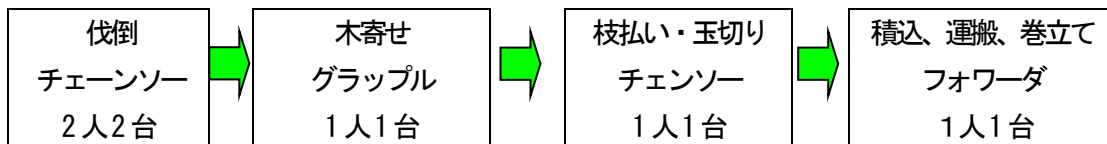
3. 取組の特長

- ・ 父から引き継いだ苗木生産。広葉樹を中心に拡大、増産を図ってきた。しかし、近年の間伐主体の施業により、皆伐が減少。それに伴い、人工造林も減少し、苗木販売も低迷している。
- ・ 予てから苗木生産、植栽から木材生産まで行う循環可能な林業経営を模索していた。
- ・ 構想実現のため、社内に素材生産部門を新設し、森林施業プランナー有資格者1名と作業員4名を採用。また、県単事業を活用し昨年度、フォワーダ1台、今年度はフェラバンチャ付きグラップルバケットとハーベスタ各1台、合計3台の高性能林業機械を導入し、事業に着手している。
- ・ 昨年度導入のフォワーダは、年度末に納入されたため、リース機械での作業であったが、それでも県の平均的な作業効率を確保しており、今年度は作業システムに必要な機械が揃ったことから、更に作業効率はアップしている。

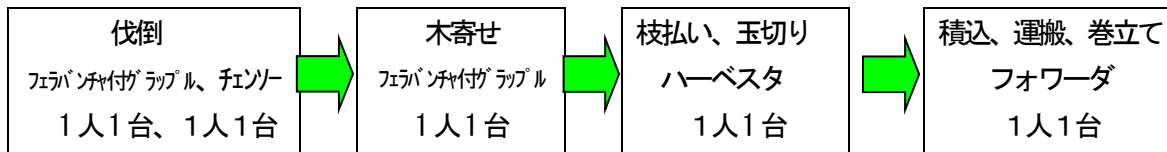
4. 具体的な内容

- ① 施業方法 : 高性能林業機械の活用による作業効率及び安全性の向上
- ② 使用機械 : ハーベスタ1台、フォワーダ1台
フェラバンチャ付きグラップルバケット1台 (フェラバンチャ付グラップル)
- ③ 作業システム :

1) 旧作業システム (4人/セット)



2) 現行作業システム (4人/セット)



- ・ 伐倒にフェラバンチャ付グラップルバケットを使用することにより、伐木コストの低減と作業の安全を確保している。

④労働生産性及び素材生産コスト：

利用間伐	旧作業システム		新作業システム	
	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)	労働生産性 (m ³ /人・日)	素材生産コスト (円/m ³)
	4.68	4,700	5.97	4,200

- ・ 新作業システムの導入により、労働生産性を約27%向上させたことで、素材生産コストが約10%削減された。

⑤その他

- ・ 皆伐地（緩傾斜地）では、伐採作業終了後直ちに、フェラハンチャ付グラブバケットにより地拵えを行い、人工造林の効率化にも配慮している。

5. 今後の取組等

- ・ 高樹齢大径材の価格低迷及び収益確保から、皆伐を要望する森林所有者が多くなってきており、それに対応した施業及び人工造林等計画し、地域の森林資源平準化に貢献していく。
- ・ 森林施業プランナーが在籍しており、今後、森林経営計画策定に向けて、地域に赴き、計画の取りまとめ及び集約化による森林整備を推進する。
- ・ 高性能林業機械の作業効率アップと、作業の安全性向上の観点から、オペレーターの育成を図るため、各種研修制度を利用して、早期に現場技術の向上を図る。



【ハーベスタによる枝払い・玉切り】



【フォワーダによる積込・運搬】

【問い合わせ先】

所属：秋田県北秋田地域振興局森づくり推進課

役職・氏名：副主幹（林業普及指導員）清水 鳴浩

連絡先：0186-62-1445